

# 雲鷹丸 第29次 大正15年度北航報告書

大正15年5月1日～9月16日

大正15年5月1日 午後2時30分品川沖出帆、館山に向ふ。水産局長代理石黒氏見送りの為め来船あり。午後8時40分館山錨地着。直ちにモーターボートを下し、明日生徒一同の体格検査を和田医師に打ち合せの為め岩崎氏上陸、10時30分帰船。

5月 2日 午前中漁具積込み左(下)の如し。

大 鯰 延 縄 10鉢

鮭 流 網 4寸5分目 15反、5寸目 15反

ビームトロール 一式

鯨 流 網 5反

鱈 手 釣 40、延 縄 5鉢

小 釣 具 若干

午前11時帰船。午後1時より実習所に於て生徒一同の体格検査を行ふ。和田医師に依れば、航海不能者を認めざる由、但し稲津生徒一人は風邪の為め此の検査に出席せず、函館に到りて尚検査を行ふこととせり。

5月 3日 午後1時出帆の予定なりしが、天候により見合せとなる。2時端艇部署発表。

5月 4日 午前7時千葉県館山港出帆、函館に向ふ。

5月 7日 (函館入港)、午前中休養。零時20分函館新川、函館製網船具株式会社染網工場生徒一同見学、4時30分帰船。

5月 8日 午前中漁具、石炭、缶詰材料積込みの予定なりしが風強く、午後3時積込時刻の不都合を交渉したるに、明9日午前7時より来船の返答あり。

5月 9日 午前7時漁具、石炭等の積込みを始め、11時30分終り。午後1時高山技師来船。

5月10日 午前10時生徒一同葛原冷蔵株式会社満光丸見学、同船船長山下氏の懇切なる説明あり。11時半帰船。

5月11日 午前9時より生徒一同日本製缶株式会社見学、10時帰船。

5月12日 午前10時30分生徒一同函館小熊冷蔵庫見学、零時20分帰船。午前中ガソリン若干積込む。

5月13日 午前6時生徒上村下船(病名慢性肋膜炎)。7時半より11時に至る間セール日乾。

5月14日 午前7時本船発、大沼公園に全生徒にてピクニックを催す。午後10時30分帰船す。

5月15日 午前8時40分函館水上署より掛り官来船、人員点呼あり。10時25分出港。

5月17日 時化。

5月18日 時化。

5月20日 午後汽走を止め、帆走予定変更し、幌筵島村上湾ばらむしるに向ふ。

5月21日 午前4時迄帆走後、汽走に移る。おんねこたん温彌児丹海峡通過。

- 5月22日 午前1時迄<sup>しつむし\*</sup>占守(島)西岸を北上せしも、3時より南下し、6時村上湾錨地着。北風強し。
- 5月24日 午前9時35分生徒一同上陸。午後水取りを為す(約7屯)。
- 5月25日 午前9時生徒全員2隻のボート及モーターボートに分乗、本船錨地より約12湊の占守島袴蟹工場に向ふ。午後5時帰船。往行途中モーターボート曳綱切れたるも異状なかりき。午後7時生徒小林宗一ウルップ丸へ乗り込む。ウルップ丸は午後本船近くに投錨せしものなり。生徒留守中、船員水取りを為す。
- 5月26日 午前4時出帆の予定なりしも、風雨強く出帆を見合す。
- 5月27日 午前7時40分出帆、占守西岸武田蟹工場見学。本船は沖合に仮泊し、10時30分生徒一同、職員数名上陸。午後1時帰船。3時50分出帆す。占守海峡を通過して、ウスチカムチャッカに向ふ。
- 5月28日 昨夜、生徒小林宗一へ国より来電、帰国無用と。今日夕刻、之をウルップ丸に伝へんとすれど、通ぜず。室蘭丸に其向きウルップへ通信方を託す。
- 5月29日 時化。
- 5月30日 時化。
- 5月31日 午前10時40分ウスチカムチャッカ第一工場近くへ投錨。10時55分露国ハーバーマスター来船。午後3時20分同地発、ウスチカムチャッカ第三工場に向ふ。5時40分同工場近く投錨。
- 6月 1日 午前9時全生徒、職員一部上陸。零時45分工場見学終り帰船。午後4時船長以下上陸職員帰船。
- 6月 2日 午前9時10分生徒上陸、11時50分帰船。午後1時生徒全員入浴の為上陸、3時帰船。9時10分船長以下職員3名入浴の為上陸、11時10分帰船。
- 6月 3日 午前4時55分石炭船来る。9時10分石炭積込終る。同時露国ハーバーマスター来船あり。正午上陸。零時12分カラギンスキーへ向け出帆。午後2時40分日魯ウスカム第一工場近くに投錨。3時露ハーバーマスター来船あり。3時44分カラギンスキーへ向け出帆。本日積載石炭70屯。
- 6月 4日 現今蟹工船につきての大要を8頁にプリントせるものを生徒一同に配布す。午後4時半頃カラギンスキー南口より入らんとして氷多し。之を中止、ゴベンスキーに向ふ。
- 6月 5日 漁場位置東経166度56分、北緯59度53分、投網、刺網50反。同時に本船より枠網を1個入れ、1時間毎に揚げたるも漁獲なし。投網午後6時にして、此の漁場到着5時。
- 6月 6日 午前6時蟹刺網揚網の為め、2隻のボート出つ。此の作業1時間半。[ハナサキガニ4尾、鰈30尾]。午前9時ビームトロール投網、約1時間後ワープ切断。零時30分ワープ及網の在所発見、船内に取り入れたり。終りて漁場変更、ラブロバ港へ向ふ。バロンコルフ湾口は小型流水多く、20湊沖合に及べり。本船ビームトロール作業中

に於ても数々接触するものあり。5日夕刻船尾より鱈を餌料として投網せる杵網は、午前6時に到るも何等の漁獲なく、人手(ヒトデ)4つ程入りたるのみなり。

6月 7日 午前6時30分50反蟹網投網、9時尚50反投網。本錨地着8時。漁場位置ラプロバ港錨地より3湮南方。午後2時より港口サウンディングを行ふ。同時生徒15名上陸。サウンディングを終りたるモーターボートは湾岸を一周、帰船4時30分。

[鱈場蟹 330尾]。

6月 8日 時化。濤、波高し。出漁不能。

6月 9日 波浪高く、出漁不可能。

6月10日 波浪高く、出漁の見込みなけれど、夕刻に至りて雨止み凪ぎたり。

6月11日 午前8時ラプロバ港出発、7日投網せる網を揚げたり。「タラバ蟹 490尾」。8時45分短艇本船を離る。11時25分帰船。午後零時30分出漁、3時30分帰船。同時に本船は漁場を少しく北方に更め、8時50分投錨、51分蟹網50反投網、9時50分帰船。午後本船に於ては漁獲蟹の処理をなす(煮蟹、肉出し、水洗等をなす)。

6月12日 午前6時前日投網せる50反の蟹網を揚げ、[鱈場蟹 6尾]。8時出発、オリウートルスキー湾に向ふ。航行中各ワッチ交代にて缶製(蟹缶詰)をなす。午後2時51分オリウトル着。5時45分グルボカヤに向け出発す。本日製品67缶の蟹缶。

6月13日 向ひ風にて前進少なし。午前9時18分針路を変じて東南に走り、陸より離れんとす。午後6時機関を止め、帆走のみ。雨霧折々来る。

6月14日 昨日よりの東北風は尚北上に逆にて前進不能、帆走して南東に流れつつあり。

6月15日 午前6時50分より汽走に移り、針路を北々東に終日直行す。

6月16日 午前6時8分グルボカヤ沖合に仮泊す。終日霧に包まる。

6月17日 午前5時30分前日よりの錨地より出発し、針路を北々西に7時20分迄進行せしも、霧深く再度投錨せり。直ちに蟹杵網を2個(内1個蓋付き)を鱈の餌料を付して投じたるに、10時50分より午後6時30分に至る間に於て、7尾を漁獲せり。然るに小蟹は目の大なりし為め貫け落ちたるにより、網の囊部を尚5節通り編き延ばしたるに、小蟹にても落ざりき。午後1時、50反の蟹網を投ず。

6月18日 午前7時昨日投網せる50反の蟹網揚網始め、10時20分終り、午後煮蟹を行ふ。  
[鱈場蟹 681尾、蟹缶詰 99缶]。

6月19日 午前6時40分アナスタシヤ錨地に到着、9時船内蟹作業始め、9時29分曳網して(モーターボートにて)蟹網100反投網。零時30分午後船内作業始め、午後2時甲板作業終り。漁場位置 東経173度10分、北緯61度15分。[蟹缶詰 134ケ]。

6月20日 午前8時昨日の錨地より動き、9時(アナスタシヤ湾)南岸に移る。

6月21日 午前7時30分より10時30分に到る間、アナスタシヤ湾内南岸に於て飲料水供給、午後0時10分同地発、漁場に向ふ。2時25分より4時に到る蟹刺網50反揚網、5時45分より7時53分に到る50反揚網。[鱈場蟹 529尾]。9時5分ナバリン崎に向け出発。

- 6月22日 午後11時45分投錨。
- 6月23日 午前9時昨日夜半の錨地を発し北上、ナバリン崎に向ふ。午後1時キング崎南方5  
湍の位置に到着、150反の蟹刺網を投ず。3時同作業終り、5時20分アルハンゲルガブ  
リエル湾内に入り投錨。「蟹缶詰 250缶」。
- 6月24日 午前8時より11時に到る間、昨日の漁場に2隻の短艇を6号モーターボートにて曳  
き行き、100反の網を投ず。「鱈場蟹 35尾」。当漁場に投網せる反数は、今日昨日を  
合すれば250反を算す。午後1時土人の案内にて上陸す。4時30分より5時30分に至る  
間、手繰網を行ふ。両翼に各1隻のモーターボートを使用す。漁獲物なし。
- 6月25日 午前9時15分アルハンゲルカブリエル錨地を発し、漁場に至る。10時40分着、揚  
網を始め、午後3時48分150反を揚げ、当日の仕事を止む。「鱈場蟹 35尾」。錨地アル  
ハンゲルカブリエル湾内に入る。白鳳丸も同錨地に来り、投錨す。時に午後5時37分  
なり。8時30分湾内川口に鮭流網を入れたり。12時見回りに行けど、霧の為め行向知  
れず。此の鮭刺網を使用したは、昨日上陸せし場合に土人家屋付近に多くの紅鮭  
を日乾しありしを見たるより行ひたるものにして、土人は約2間程の刺網を川の流れ  
少なき場所に入れて漁獲するか、鉤を使用せり。漁期中土人の食料は紅鮭の如し。
- 6月26日 午前零時45分、昨夜12時鮭流網を見回りに行きたる短艇帰り、在所不明を告げ  
たりしが、5時再度鮭網を探したるに投網位置に於て発見するを得たり。不明在所な  
りしは濃霧の為めなりき。6時56分アルハンゲルカブリエル湾を発し、漁場へ向ふ。  
8時7分漁艇を下し、11時揚網100反を終り、ウスチカムチャッカへ向ふ。「紅鮭 1尾、  
鱈場蟹 14尾」。
- 6月27日 午前5時30分2隻の漁艇に依りて100反の蟹網を投ず。午後8時、午前中投網せる  
蟹網を揚げ、南下す。「鱈場蟹 84尾」。
- 6月28日 午前8時、正午位置に投錨。10時蟹網投網100反。9時昨日白鳳丸より来れる蟹を  
処理製缶を行ふ。午後4時30分作業終了。「鱈場蟹 15尾、蟹缶詰 96缶」。
- 6月29日 午前6時30分より11時迄に昨日投網せし100反を揚げ、午後零時58分同漁場出発、  
6時4分投錨、6時20分蟹網投網50反。「鱈場蟹 15尾」。
- 6月30日 午前7時、昨日投網分を揚げ、午後3時より南下し、8時投錨、直ちに100反の蟹  
網投入。「鱈場蟹 31尾」。
- 7月 1日 午前7時より8時40分に至る昨日投網せる蟹網の一部を揚げ、午後1時より5時10  
分に至る残りの蟹網を揚げ、アナスタシヤ湾口に来りて50反の投網をなしたり。内  
10反は白鳳丸より借用せる旧来の刺網なり。「鱈場蟹 1,249尾、蟹缶詰 351缶」。
- 7月 2日 午前10時昨日漁場へ尚100反の蟹網を投ず。午後4時よりアナスタシヤ錨地西南  
岸にて機関水を取り始め、6時30分水取り止め。午前9時より10時迄アナスタシヤ湾  
口より奥に入る。
- 7月 3日 午前5時より7時迄アナスタシヤ湾西南岸に於て水取りを為す。学生一同漁網修

理を行ひ、一部のもの沈子を取る為め上陸、午後6時帰船す。時化模様。

- 7月 4日 午前9時20分生徒全部白鳳丸に行く。白鳳丸は生徒の為に正午より午後1時迄1回、第二次午後1時半より2時30分迄、トロールを行ひたり。生徒午後4時帰船。午前10時より11時迄、午後1時より2時30分迄、4時30分より5時に到る間に於て150反の蟹網を揚ぐ。午後8時40分ナタリー湾口投錨。「鱈場蟹 1,218尾」。
- 7月 5日 午前7時昨夕錨地より東北方バシリヤ島沖合に蟹網100反を本船付きにて投網を行ふ。10時前錨地に帰る。同時に白鳳丸来り、案内により湾奥錨地セントパトラ錨地に入る。午前10時より午後9時に至る迄缶詰作業。「鱈場蟹 1,491尾、蟹缶詰 774缶」。
- 7月 6日 午前4時30分より11時30分に至る間缶詰作業。午後休養。白鳳丸は午後6時出発、グルボカヤに至る。波浪高しとの入電あり。
- 7月 7日 昨夕の白鳳丸よりの入電よりては波浪高く、ボート作業困難とありたれば、午前8時ランチにて事実なるかを見ん為め、沖に出づ。波高ければ止むを得ず。セントパトラ錨地泊。
- 7月 8日 午前4時30分抜錨。濃霧の為、5時より8時迄セントパトラ湾口に投錨。9時漁場に着、揚網。100反。午後5時30分南航、ウスチカムチャッカへ向ふ。
- 7月 9日 午前6時缶詰作業始め、ワッチ交代にて作業をなす。
- 7月10日 [蟹缶詰 282ケ]。
- 7月11日 午後11時ウスチカムチャッカ日魯会社第一工場地先投錨。
- 7月12日 午前10時30分露官吏来船。11時30分ウスチカムチャッカ日魯会社第一工場地先を發し、午後2時30分ウスチカムチャッカ第三工場地先投錨。
- 7月13日 ウスチカムチャッカ日魯会社第三工場地先錨地碇泊。午前6時30分より水取りを始む。午後6時止め。午前9時30分露官吏来船。午後1時石炭積込を始む。5時中止。午後3時30分より7時迄生徒一同上陸を許す。
- 7月14日 ウスチカムチャッカ日魯会社第三工場地先泊。零時30分より午後5時に到る間、石炭積込みをなすも、波高く困難なりき。
- 7月15日 午前5時ウスチカムチャッカ日魯会社第三工場地先を發し、カラギンスキー島近海に向ふ。午前8時より午後6時迄蟹網修理をなす。
- 7月16日 午前8時より午後4時迄漁網修理。4時ウキンスキー湾内に来り投錨。4時30分より6時に到る間蟹網投網100反。
- 7月17日 午前6時15分より9時30分に到る間、昨日投網の100反の蟹網を揚ぐ。「鱈場蟹 12尾」。之より本日の位置に来りて午後1時50反の蟹網を投ず。2時50分より3時30分に到る間、ビームトロールを行ふ。
- 7月18日 午前5時30分昨日の漁場に於て50反の蟹網を揚げ、本漁場に移る。午後6時30分30反を投ず。「鱈場蟹 5尾」。

- 7月19日 午前6時昨日投ぜし30反の蟹網を揚げ、位置変更。午後6時30反の蟹刺網を投ず。  
[鱈場蟹 3尾]。
- 7月20日 午前8時昨日の30反の網を揚げ、東経163度32分、北緯59度10分の位置に來りて  
ビームトロールを行ふこと約2時間(午後1時30分より3時55分)、鱈2尾を獲す。
- 7月21日 午前7時より8時にビームトロールを行ふ。漁獲なし。午後5時東経165度27分、  
北緯60度1分に來り、50反の蟹刺網投網。[鱈場蟹 23尾]。
- 7月22日 午前5時昨日投網の50反を揚げ、尚北上すること4裡にして、午前8時50反の蟹刺  
網を入れたり。10時40分より12時30分迄ビームトロールを曳き、鰈30尾を獲。午後2  
時ビンスコイ日魯会社北漁場地先投錨。同時に鮭網見学。3時出発、ビンスコイ  
南漁場に向ひ、6時着、上陸。7時発、午前8時投網せる漁場に來りて、午後8時半投  
錨。[鱈場蟹 3尾]。
- 7月23日 午前5時30分昨日午前8時投網せる蟹網50反を揚げ、3尾の蟹を漁獲したり。之よ  
りオリウトルスキー灣に向はんとすれども、波高く風強ければ、ゴベンスキー崎西  
南沖に投錨す。
- 7月24日 午後2時凧の見込み立ち、オリウトル灣に向ふ。
- 7月25日 午前9時30分より11時に到る間、オリウトル灣内に於てビームトロールを行ふ。  
[鰈 250尾]。正午露管理來船。午後2時オリウトル発、5時オリウトル崎沖3裡の漁場  
に於て蟹網投網50反。投錨。
- 7月26日 午前5時昨日投網の50反を揚げ、6時シリポチナヤ沖へ向ふ。午後7時シリポチナ  
ヤ沖着、蟹刺網投網100反。投錨。[鱈場蟹 3尾]。
- 7月27日 昨日投網の蟹刺網100反を午前6時揚げ、グルボカヤ沖に向ふ。グルボカヤ灣沖  
に於て、午後6時5分より100反の蟹刺網を投ず。午後8時グルボカヤ灣イマトラ錨地  
に投錨す。[鱈場蟹 215尾、蟹缶詰 830ケ]。
- 7月28日 午前6時より午後5時に到る間淡水を取る。
- 7月29日 午前4時30分グルボカヤ錨地発、6時より9時30分に27日夕刻投網の100反の蟹網  
を揚げたり。11時より午後6時迄蟹処理。午前9時30分揚網後、直ちに南下オリウト  
ル崎を過ぎてウスチカムチャッカへ向ふべく出発。[鱈場蟹 451尾]。
- 7月30日 航走中缶詰作業を為す。[蟹缶詰 92缶]。
- 8月 1日 午前5時ウスチカムチャッカ日魯会社第一工場地先投錨。午後5時露官吏來船。6  
時30分第三工場へ向け出発。9時途中濃霧の爲め投錨す。
- 8月 2日 午前8時ウスチカムチャッカ日魯会社第三工場地先投錨。生徒一同上陸、午後6  
時帰船。
- 8月 3日 午前11時30分より上陸、ウスチカム第三日魯会社工場見学。内田氏の説明あり。  
午後4時帰船。
- 8月 4日 午前8時30分第一回石炭船來船、11時30分終り。第二回は午後2時30分來船、4時

30分終了す。

- 8月 5日 午前5時ウスチカムチャッカ日魯会社第三工場地先発、9時第一工場地先着。正午露官吏来船。午後3時同地出発、カムチャッカ西岸に向ふ。
- 8月 7日 午後11時ロパッカ崎通過。
- 8月 8日 午前9時村上湾投錨。
- 8月 9日 午前9時発、オゼロナヤへ向ふ。午後5時50反の蟹刺網を投じ、オゼロナヤ投錨。午後6時露官吏来船。9時沖出し、漁場に投錨。
- 8月10日 午前9時オゼロナヤ工場地先に来り、投錨。生徒一同上陸、工場見学後、露官吏の案内にてオゼロナヤ川に至りて鮭の遡上を見学。午後7時オゼロナヤ地先を発し、漁場に至る。
- 8月11日 時化模様にて揚網見込立たず。正午に至りて南風強く波高ければ、午後1時より9日投網せる位置を離れて西に針路を取り、沖出しす。
- 8月12日 午前6時凧となり、午後2時30分、9日投網せる漁場に来りて揚網を為す。9時30分蟹処理作業止め、同地投錨。[鱈場蟹 1,091尾]。
- 8月13日 午前6時蟹処理作業を始む。9時中止し、オゼロナヤ日魯会社工場近くに来り投錨す。午後1時同地を発し、ヤイナ沖合に向ふ。午後7時より11時に至る鮭流網を行ふ。金鶏丸より借り受けたる鱈流網を2隻のボートにて各5反宛使用せり。[紅鮭 2尾、鱈 26尾、蟹缶詰 503缶]。
- 8月14日 午前8時ヤイナ日魯会社工場沖合に於て、昨夕投網の蟹網を揚げ、ゴセコチック沖合に至りて投錨。[鱈場蟹 17尾]。
- 8月15日 午後5時キシカ沖合に来りて蟹網50反を投じ、午後7時より鮭流網を行ふ。16反使用。
- 8月16日 午前1時30分鮭流網ボート帰船。午前8時より午後零時30分に10鉢の大鮭縄を使用す。1時30分より第二回の大鮭縄を行ふ。使用鉢数を4鉢増したれども、之等の増したる縄は鱈延縄を用ひたり。第一回の縄には餌に鯀を使用せるも、第二回には鱈の切身を使用せり。[第一回大鮭延縄漁獲 5尾、第二回漁獲 3尾、鮭 7尾、鱈 34尾]。同漁場投錨。
- 8月17日 午前9時、15日投網の50反の蟹網を揚げ、10時同漁場発、午後2時蟹工船豊国丸へ到着。4時に至る間同船見学。5時豊国丸を発し、龍裕丸に向ふ。午後7時30分より12時迄鮭流網を行ふ。使用せる網は鱈流し16反。[鮭 6尾、鱈 13尾]。
- 8月18日 午後1時龍裕丸へ到着。3時より6時に至る間、同蟹工船見学。
- 8月19日 午前6時迄龍裕丸近くに投錨し、8時より10時迄鱈釣りを為し[鱈 11尾]、之を餌料として10時より午後1時迄12鉢の(大鮭)延縄を使用するも、漁獲物なし。3時に至り鱈の切身を蟹枠中の餌料として投じたるも漁獲なし。午後6時龍裕丸より離る。午後8時より12時に至る間、鮭流網を行ひたれど漁獲少なく2尾の鱈を獲たるのみ。

- 8月20日 午前9時より10時30分迄鱈釣りを行ふ[鱈 15尾]。午後1時30分針路を西に取りて時化を避けん為め沖出しす。
- 8月21日 風強く波高し。午前10時より正午に至る最も烈し。
- 8月22日 午前中は風強く波高かりしも、午後に至りて凪ぎ、2時龍裕丸に向ひて北上す。途中午後9時30分より12時迄鮭流網を行ふも漁獲少なし。流網は2隻の短艇にて16反を使用せり。[鱈 4尾、鮭 1尾]。
- 8月23日 午前0時30分鮭流網を終り北上。8時30分龍裕丸着。蟹刺網を渡し、南下し、大泊に向ふ。午後4時より5時30分に至る間、手繰網を使用す。結果良好、曳き始めより終り迄45分間なれども13尾の鱈場蟹を獲たり。他の魚類は見られざりき。午後8時出発、内地に向ふ。
- 8月28日 午後8時愛郎湾に入らんとして不能、北上す。
- 8月29日 午後7時9分大泊港投錨。
- 8月30日 生徒一同大泊発午前8時50分、豊原へ遠足をなし、午後4時3分帰船せり。豊原に於ては樺太庁岡本氏の尽力にて種々便宜あり。
- 8月31日 午前4時大泊港発、小樽に向ふ。
- 9月 1日 午後2時小樽港着。
- 9月 3日 午前10時本船発、生徒一同高島試験場見学、午後4時帰船。
- 9月 4日 午前7時、生徒一同北海道大学見学に出発、9時30分北海道庁訪問、10時30分北海道大学植物園見学、11時半大学及水産専門部訪問。午後2時帝国製麻会社札幌工場見学、3時札幌ビール会社見学、6時20分帰船。
- 9月 6日 零時30分小樽港出発、夕刻6時30分函館港投錨。
- 9月 7日 午後零時30分日本製缶会社見学。5月中旬見学の折りは休業なりしも、今日は作業中にして\_\_宮氏の説明あり。
- 9月 8日 零時10分函館錨地出発、女川に向ふ。
- 9月 9日 午後2時30分宮古港投錨。11時同港出発、女川に向ふ。
- 9月10日 午後6時女川錨地碇泊。
- 9月11日 午前9時本船を發し、生徒一同金華山見物を終り、午後2時金華山発、3時40分本船到着。
- 9月12日 午前9時女川港発、館山に向ふ。
- 9月13日 午後零時20分銚子灯台右舷ビームに見ゆ。
- 9月14日 午前7時館山錨地投錨。積荷陸揚げを始め、ドライセールを行ふ。午後休養。
- 9月15日 午前10時より全セールの取り外しを行ひ、午後上陸、実習所に於て体格検査を行ふ。
- 9月16日 午前7時館山港を發し、午後1時30分品川沖投錨。